

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.12
2013 December

発行者 琉球病院事務部長
藤田 博文

院長

村上優 (むらかみ・まさる)

1949年生まれ

74年九州大学医学部卒業

86年国立肥前療養所精神科医長。2002年国立肥前療養所臨床研究部長

同年King's College London Institute of Psychiatry (司法精神医学研究所) 長期研修

2005年花巻病院臨床研究部長 (併任) を経て、2006年琉球病院長に就任

日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事 NGOベシャワール会の副会長として活躍



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

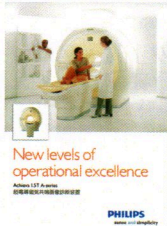
現在、MRIの機器更新工事を進めており、12月中旬には稼働を開始します。この機器更新により、認知症医療などをはじめとする地域医療に貢献していきたいと考えております。

新しいMRIの機能については、磁場の強さが、1.0テスラから1.5テスラとなり、これまで以上に画像がより鮮明となります。また、認知症早期発見ツールであるVSRAD (voxel-based specific regional analysis system for Alzheimer's disease) については、これまでのものより精度が上がります。VSRADとは、コンピュータを用いMRI画像データにおいて、脳の各部分の容積を自動計測しアルツハイマー型認知症の初期に萎縮が出現する部位である海馬傍回の萎縮率を算出し、早期にアルツハイマー型認知症を見つける方法です。それにより、早い段階で治療が開始でき、進行を抑制する薬物療法や心理社会的な関わりでの治療をも開始することにつながります。

また、新しいMRIには機能的MRI (functional-MRI) の装置を導入しました。機能的MRIとは脳血流を測定する装置であり、脳の形態的な状態 (形) だけでなく、その機能的な状態 (働き) を測定することができます。脳の働きをみることにより、病気の状態をより細かく知ることができます。これは、病気の診断にも有用ですが、病気の原因を追究するためにも有用な手段となります。

今後、さらに関係機関との連携を密にして、この新しいMRIを有用に活用することにより、認知症医療をはじめとした精神科医療のさらなる充実と質の向上を図っていきたくと考えております。

副院長 福治 康秀



MRI 作業状況

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
- ユニット 4床
- ・重症心身
- 障がい 80床
- ・医療観察法 37床



●アクセス

路線バス/ 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス
「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自動車/ 那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
- 進捗状況

本体工事：請負業者 電気設備 …… (株)九電工
機械設備 …… (株)三建設備工業
建築工事 …… 平成25年12月3日(水)入札予定

- 第23回金武町健康福祉祭り
平成25年12月1日(日) 8:30~16:00 金武町中央公民館・中央グラウンド・体育館
琉球病院職員による屋外健康相談、簡易健康度チェック

教育・研修

- 琉球病院ダンスパーティー 平成25年12月12日(木) 14:00~16:00 院内開催 (院内及び外部対象)
- 重心病棟クリスマス会 平成25年12月19日(木) 13:30~16:00 院内開催 (院内及び家族会対象)
- CVPFPフォローアップ研修 平成25年12月10日(火) 8:30~17:00 院内開催 (院内及び外部対象)

● 地域医療連携室だより

・活動状況 当院の開放病棟には、統合失調症を主とした男女混合の病棟があります。LOCUS評価を用いて、社会復帰を目指した退院促進を図っています。長期間入院生活を送られている方が多いため、病状の安定を図るとともに社会生活機能を評価し、身体機能と生活意欲それぞれの維持・向上を目指した関わりを多職種で行っております。このようの方が病院以外の場所で生活を送るように地域や施設等機関との連携を取っております。

お問い合わせ時間
8:30~17:15 (土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通



空床状況

| | | | |
|--------------|-----------|--------------|-----------------|
| 精神科病棟 15床 | 認知症 2床 | アルコール 10床 | 児童思春期ユニット 1床 |
|--------------|-----------|--------------|-----------------|

11月20日現在

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症に対して、平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は100例となりました。平成25年10月の新規導入は4例であり、重度の精神症状にも効果的で退院数も30例を越えています。クロザピン専門外来も週に2回行っており、患者様のご相談をお待ちしています。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成25年10月の治療実績は7例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

こども心療科では、外来診療以外にも、北I病棟に児童思春期ユニットが4床あり、入院治療もおこなっています。入院している子どもたちに合わせて、季節感を取り入れた活動を適宜実施しております。

入院治療も含め、こども心療科の受診は予約制になっております。

まずは地域連携室へお問い合わせください。



認知症医療

★ オレンジプラン ★ ★ 機能的MRI ★

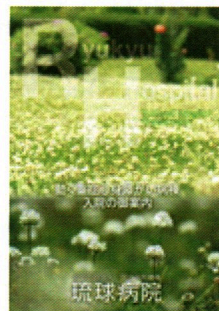
★オレンジプラン、地域医療連携の一環で、施設や地域を訪問させていただいています。地域では、認知症についての出前講座をさせていただき、認知症という病気や介護についてお話しています。認知症の治療、ケアについて、いつでも出前をいたします。

問合せ：地域医療連携室（伊波）

★当院では、これまでのMRIを更新し、12月に「機能的MRI」が整備されます。脳の「構造」だけでなく「機能」を診ることのできるMRIです。特に認知症の診断にも有効とされます。認知症専門病院として、診断技術もさらにレベルアップします！

重症心身障がい児医療

重症心身障害者病棟では、この度パンフレットを新しく作成し、県内の行政機関や福祉施設へ伺い病棟の紹介や動く重症心身障害、強度行動障害についての説明を行っています。動く重症心身障害や強度行動障害について初めて耳にするとの声もあり、当院で行っている治療・療育を紹介していくことの大切さを感じております。中北部を中心に紹介を行っていますが、今後は県内各地へも行っていきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。これからも地域の皆様とネットワークの輪を広げ、連携を図っていききたいと思います。



アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では10月現在、外来通院の患者様23名、入院中の患者様7名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入をすすめています。断酒が困難な方は、ぜひ外来に受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

11月になり、段々と秋を感じる季節になりました。沖縄県は紅葉がなく県外に比較すると、季節感を感じることは少ないのですが地域で生活する利用者様の服装で季節感を感じています。気温の寒暖差があり、体調変化や季節の変わり目に精神症状が不安定になる利用者様が多い印象があります。当院の訪問看護は、5チーム体制で日々北部・中部（浦添市・中城村等）を訪問しています。訪問看護の目的は個々に違いがありますが、基本的には病状悪化をせず地域で安定した生活をするための支援を行ないます。入院中からの紹介が殆どですが、外来からの訪問看護の指示がでる方もおります。訪問看護に内容について、不明な点は当院の地域医療連携室へご連絡ください。

臨床研究部活動状況 - 臨床心理学研究室より -

当院の認知症病棟において、見当識の乏しさを中核障害にもつ認知症高齢者に対し、感覚刺激（主に視覚刺激）の活用および個別の対応により状況理解を促し、活動・対人交流意欲の向上をねらいとしたグループアプローチを行いました。12名~17名の患者に対し、写真、スライド、オブジェクト、ロールプレイなどを用いた動作を介するやりとりを1回50分、週2回実施し、状況理解の評価は状況に応じた適切な反応の有無、安心感、自発性を取り上げました。その結果、①自発的な発言、文脈に合ったコメントが増えた、②声を出して笑うなど不安の低減がみられた、③「ありがとう」など感謝のことがあった、④参加拒否から自発的参加につながった、⑤活動の文脈とは異なるが主体的な発言が増えた、など変化がみられました。このようなアプローチの効果は、患者の注目や応答を促し、安心感、自発性、情動の安定につながったと考えられました。



視覚刺激例